

<b>フルアジナム水和剤 フロンサイド SC</b>	<b>取扱メーカー：</b> 石原、ホクサン、日本曹達  <b>原体メーカー：</b> 石原産業
<b>成分：</b> フルアジナム〔PRTR・1種〕……………39.5%	<b>性状：</b> 淡黄色水和性粘稠懸濁液体 <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> ——

## 【品目特性】……………

- フロンサイド水和剤の項参照。
- フロアブルのため、希釈時の懸濁性もよく、植物体にも均一に付着し、高い効果が期待できる。
- 難防除病害の果樹紋羽病に高い効果があり、りんごでは白紋羽病と紫紋羽病の同時防除が可能。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

## 【使用上のポイント】……………

- 治療効果がほとんどないので、病原菌の感染前の予防的な散布を行う。また浸透移行性が少ないので、茎葉の表裏に十分にかかるよう、丁寧に散布する。

- 使用直前には容器をよく振る。

### 〈かんきつ〉

- 灰色かび病対象に使用する場合
  - 開花期の散布により、灰色かび病、そうか病、黒点病の同時防除が可能で、またミカンハダニの密度抑制効果も期待できる。
  - 灰色かび病の耐性菌にも高い効果を示す。

- そうか病対象に使用する場合
  - 萌芽期散布では、通常薬剤より若干早め（芽が3～5mm程度）の使用が望ましい。またミカンハダニの密度抑制効果が期待できる。

### 〈りんご〉

- ノンボルドー体系
  - 斑点落葉病の急増期前に使用する。
- ボルドー体系
  - ボルドーを使用する前後の時期に斑点落葉病を対象に使用する。但し、ボルドーとは、7日間以上の間隔をおく。

### 〈なし〉

- 赤なし（特に幸水）では、葉に葉害のおそれがある

るので、赤なし園及び混植園では、6月以降の散布とする。

- 赤なしでは、輪紋病の主感染時期である6月中旬～7月中旬に黒星病との同時防除をねらい使用する。

- 青なしでは、黒斑病の2回目の増加期となる6月下旬～7月上旬に黒星病との同時防除をねらい使用する。黒斑病の耐性菌にも高い効果を示す。

### 〈もも〉

- 灰星病対象に収穫30～7日前に使用する。
- 灰星病では従来剤に対する耐性菌の発達が懸念されているので、ローテーション散布の1剤として使用する。

### 〈ぶどう〉

- 灰色かび病、枝膨病、黒とう病、べと病、晚腐病の同時防除が可能である。

- 葉、果実に対する葉害のおそれがあるので、開花直前に使用する。

- 灰色かび病の耐性菌にも高い効果を示す。

### 〈紋羽病〉

- 難防除である白紋羽病に高い効果がある。また紫紋羽病にも効果がある。

- 紋羽病対象に使用する場合は、休眠期に樹幹から半径1m程度掘り上げて根部を露出させ、病根を除去後、所定濃度の薬液を灌注し埋め戻すか、樹幹から半径1m程度の範囲に土壤灌注機を用いて所定量の薬液を灌注する。但し土壤灌注機による灌注は予防的使用か軽症樹に限って行う。

- 苗木に使用する場合は、植付時に所定量の薬液を灌注しながら掘り上げた土を埋め戻すか、植付後に土壤灌注機を用いて所定量を注入する。

- 樹の大きさにより灌注水量を調節する。また、灌注水量を厳守し、灌注水量が100ℓ以上必要な場合は1000倍で使用する。

- 10a当りの処理本数が多い場合には、150本

### 〈根こぶ病・すそ枯病〉

- 所定量の薬量を圃場全面に均一に散布し、土壌と十分混和する。降雨直後の処理は混和ムラの原因となるのでさける。

〈尻腐病・軟腐病〉

- 全面土壌散布で使用する場合は、畦立て作業後に所定量の薬量を均一に散布する。

〈茶〉

- 輪斑病防除に使用する場合は、防除効果の低下を防ぐため、摘採又は整枝当日に使用する。

## 【薬効・薬害等の注意】 .....

- かんきつのミカンハダニに使用する場合は、かけ残しないように丁寧に散布する。
- 適用作物（いちご、なし、ぶどう、レモン、うめ、もも、はくさい、キャベツ、レタス、非結球レタス、だいこん）の葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。
- 適用外作物（きゅうり）への葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。

## 【安全対策上の注意】 .....

- フロンサイド水和剤の項参照。
- 苗床で使用した場合、採苗・定植する際は必ず手袋を着用する。
- 魚類に強い影響を及ぼすおそれがあるので特に注意する。
- 甲殻類、藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意する。
- 桑にかからないように注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



## 【適用と使用法】 .....

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数
りんご	斑点落葉病 黒星病 すす点病 すす斑病 褐斑病	2000～ 2500倍	200～700 ℓ / 10a	45日前 まで	1回	散布	2回以内 (散布は1回以 内、土壌灌注 は1回以内)
	輪紋病 モニリア病	2000倍					
	白紋羽病 紫紋羽病	500倍	50～100 ℓ / 樹			土壌灌注	
		1000倍	100～200 ℓ / 樹				
なし	黒斑病 黒星病	2000～ 2500倍	200～700 ℓ / 10a	30日前 まで		散布	
	輪紋病	2000倍					
	白紋羽病	500倍	50～100 ℓ / 樹			土壌灌注	
		1000倍	100～200 ℓ / 樹				
もも	灰星病 ホモブシス腐敗病	2000倍	200～700 ℓ / 10a	7日前まで	散布		
	白紋羽病	500倍	50～100 ℓ / 樹	30日前 まで	土壌灌注		
		1000倍	100～200 ℓ / 樹				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数			
う め	黒星病 灰色かび病	2000 倍	200～700 ℓ /10a	発芽期まで 但し、収穫 60 日前まで	1 回	散布	2 回以内 (散布は 1 回以 内、土壌灌注 は 1 回以内)			
	白紋羽病	500 倍	50～100 ℓ / 樹	収穫後から 開花前まで 但し、収穫 60 日前まで		土壌灌注				
ぶ ど う	晩腐病 黒とう病 べと病 灰色かび病 枝膨病	2000 倍	200～700 ℓ /10a	開花直前～ 落弁期 但し、収穫 60 日前まで		散布				
	白紋羽病	500 倍	50～100 ℓ / 樹	21 日前 まで		土壌灌注				
		1000 倍	100～200 ℓ / 樹							
び わ	灰斑病	2000 倍	200～700 ℓ /10a	7 日前まで		散布				
	白紋羽病	500 倍	50～100 ℓ / 樹	収穫後から 開花前まで		土壌灌注				
		1000 倍	100～200 ℓ / 樹							
		500 倍	100 ℓ / 樹							
キウイフルーツ	灰色かび病 果実軟腐病	2000 倍	200～700 ℓ /10a	30 日前 まで		散布	1 回			
かん き つ	そうか病 灰色かび病	2000～ 2500 倍						2000 倍		
	黒点病 ミカンハダニ ミカンサビダニ チャノホコリダニ									
か き	落葉病 黒星落葉病 炭疽病 灰色かび病	2000 倍						45 日前 まで		
	ネクタリン おうとう いちじく ブルーベリー 小粒核果類 (うめを除く)	白紋羽病		1000 倍				100～200 ℓ / 樹	30 日前 まで	土壌灌注
500 倍				50～100 ℓ / 樹				21 日前 まで		
								収穫後から 開花前まで 但し、収穫 60 日前まで		

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数	
りんご (苗木)	白紋羽病 紫紋羽病	500倍	—	植付時	1回	20分間 苗木浸漬	2回以内	
			25～50ℓ / 樹	植付後 但し、収穫 開始1年前 まで		土壌灌注	(苗木浸漬は1 回以内, 土壌灌 注は1回以内)	
	キウイフルーツ (苗木)		白紋羽病	—		植付時	1時間苗 木浸漬	1回
小麦	紅色雪腐病 雪腐大粒菌核病 なまぐさ黒穂病	1000倍	60～150ℓ /10a	根雪前	2回 以内	散布	3回以内 (は種前は1回 以内, は種後 は2回以内)	
		1000～ 2000倍						25ℓ /10a
		250倍						
ばれいしょ	疫病	500倍	100～300 ℓ /10a	7日前まで	4回 以内		6回以内 (種いも浸漬は 1回以内, 植付 前の土壌混和 及び植付時の 植溝散布は合 計1回以内, 植 付後の散布は 4回以内)	
	菌核病	1000～ 2000倍						
	夏疫病	2000倍						
	そうか病	100倍	—	植付前	1回	種いも 瞬間浸漬		
やまのいも	葉渋病	2000倍	100～300 ℓ /10a	7日前まで	4回 以内	散布	5回以内 (植付前の土 壌混和は1回 以内, 植付後 の散布は4回 以内)	
ごぼう	黒条病	1000倍		21日前 まで	3回 以内		3回以内	
食用ゆり	葉枯病			14日前 まで	6回 以内		8回以内 (球根瞬間浸 漬は2回以内, 散布は6回 以内)	
	鱗茎さび症	50倍	—	植付前	2回 以内	球根瞬間 浸漬		
あずき	炭疽病	1000～ 2000倍	100～300 ℓ /10a	21日前 まで	3回 以内	散布	3回以内	
	灰色かび病							
いんげんまめ	菌核病	1000倍		7日前まで				
	炭疽病	1000～ 2000倍			14日前 まで			
べにばないんげん	灰色かび病	1000倍						
たまねぎ	乾腐病	50倍	—	定植直前	1回	5分間苗 根部浸漬	7回以内 (全面土壌混 和は1回以内, 苗根部浸漬は 1回以内, 散 布は5回以内)	
	灰色腐敗病 べと病	1000～ 2000倍	100～300 ℓ /10a	3日前まで	5回 以内	散布		
								灰色かび病
	白色疫病	1000倍	100～300 ℓ /10a					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農業の総使用回数
てんさい	根腐病	1000～ 2000倍	100～300 ℓ /10a	30日前 まで	4回 以内	株元散布	5回以内 (は種前の土壌 混和及び苗床 灌注は合計1回 以内、株元散 布は4回以内)
	黒根病	1000倍					
		100倍	3ℓ /m <sup>2</sup>	移植前	1回	苗床 土壌灌注	
いちご	炭疽病	1000倍	50mℓ / 株	育苗期		灌注	1回
アスパラガス (露地栽培)	茎枯病 斑点病	2000倍	100～300 ℓ /10a	収穫終了後 但し、 秋期まで	5回 以内	散布	5回以内
茶	炭疽病 輪斑病 新梢枯死症 (輪斑病菌による) もち病 網もち病 灰色かび病 褐色円星病 チャノホコリダニ	2000倍	200～400 ℓ /10a	摘採14日 前まで	1回	散布	1回
ゆり	茎腐症 (リゾプス菌による)	500倍	3ℓ /m <sup>2</sup>	定植後	2回 以内	土壌灌注	3回以内
うるし	白紋羽病		20～50ℓ / 樹	発病前	1回		1回

作物名	適用病害名	10 a 当り使用量		使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農業の総使用回数			
		薬量	希釈水量							
はくさい	根こぶ病	500 ml	100～ 200 ℓ	定植前	1 回	全面散布 土壌混和	2 回以内 (土壌混和は 1 回以内、土壌散 布は 1 回以内)			
	尻腐病 軟腐病					全面土壌 散布				
キャベツ	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 菌核病 根こぶ病		100～ 200 ℓ	は種又は 定植前	2 回以内 (苗床では 1 回以内、 本圃では 1 回以内)	全面散布 土壌混和	3 回以内 (苗床では 1 回 以内、本圃での 土壌混和は 1 回 以内、土壌散布 は 1 回以内)			
	菌核病									
	株腐病		150～ 200 ℓ	定植前	全面土壌 散布					
ブロッコリー カリフラワー	根こぶ病					100～ 200 ℓ		1 回	全面散布 土壌混和	1 回
かぶ										
だいこん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌)		100～ 200 ℓ	は種前	1 回		全面散布 土壌混和			
	ビッグベイン病									
レタス 非結球レタス	すそ枯病		全面土壌 散布							
	軟腐病									

作物名	適用病害名	10 a 当り使用量		使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
ばれいしょ	粉状そうか病	400～ 600 ml	100～ 200 ℓ	植付前	1 回	全面散布 土壌混和	6回以内 (種いも浸漬は1 回以内、植付前 の土壌混和及び 植付時の植溝散 布は合計1回以 内、植付後の散 布は4回以内)
		200 ml	20 ℓ	植付時		植溝散布	
	そうか病						
やまのいも	褐色腐敗病	500 ml	100～ 200 ℓ	植付前		全面散布 土壌混和	5回以内 (植付前の土壌 混和は1回以内、 植付後の散布は 4回以内)
小 麦	縞萎縮病	600 ml	100 ℓ	は種前			3回以内 (は種前は1回 以内、は種後は 2回以内)
	なまぐさ黒穂病						
チューリップ	微斑モザイク病 条斑病	500 ml	100～ 200 ℓ	植付前		7回以内	